令和６年度予算編成に当たっての施政方針

提案説明に先立ちまして、１月１日に最大震度７の令和６年能登半島地震におきまして、犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げ、一刻も早い被災地の復旧・復興を祈念いたします。

それでは、令和６年度予算編成に当たっての施政方針を述べさせていただきます。

まず初めに昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類に移行し、休止となっていたイベント等は再開され、小平市第四次長期総合計画に掲げる「つながり、共に創るまち こだいら」の「つながり」につきましては、様々な形でコロナ禍以前に戻ってきたと感じております。

国の１２月の月例経済報告では、個人消費の持ち直しや企業収益の改善など、景気の緩やかな回復が見て取れますが、その一方で、ウクライナ情勢やイスラエル・パレスチナ情勢など、不透明感を増す国際情勢の影響などもあり、円安が進むとともにエネルギーや原材料・食料品等の価格が高騰し、市民の皆様の暮らし向きも依然厳しいものと認識しております。

他方、昨年は、ワールド・ベースボール・クラシックでは、本市出身の栗山英樹監督が率いる「侍ジャパン」が３大会ぶり３回目の優勝を果たし、大きな感動と勇気を与えてくれたことは記憶に新しいところでございます。本年はパリオリンピック・パラリンピックが開催され、令和７年には、日本初となるデフリンピックの開催もあり、私たちを元気づけてくれるものと信じております。

令和６年度は、小平市第四次長期総合計画の４年目であり、私にとっては１期目の市長任期の最終年度となります。さらに「つながり」の輪を広げていくとともに、「共に創るまち」の実現に向け、市民参加・市民協働の取組を推進し、魅力と活力に満ちたまちづくりに一層努めてまいります。

先行き不透明な社会経済情勢への対応といたしましては、国や東京都と役割を分担しつつ、市民サービスの向上や物価高騰対策等に取り組んでまいります。

さて、国におきましては、令和６年度予算を、「歴史的な転換点の中、時代の変化に応じた先送りできない課題に挑戦し、変化の流れを掴み取る予算」としております。一般会計総額は１１２兆５千７１７億円となり、１２年ぶりに前年を下回ってはいるものの、６年連続で１００兆円を超える当初予算案となっております。また、これに先立ち編成された令和５年度第１号補正予算は、物価高対策や持続的賃上げ、国内投資の促進などを掲げ、追加歳出は１３兆１千９９２億円の規模となっております。

東京都におきましては、令和６年度予算を、「変化する社会情勢の中、東京・日本の輝かしい未来を切り拓くため、産業や経済、社会の構造転換に挑み、一人ひとりが輝く明るい「未来の東京」を実現する予算」と位置づけ、国際競争力の強化やデジタルによるサービス改革の深化、強靭で持続可能な財政基盤の堅持などを編成方針に掲げ、一般会計の総額で、前年度を４千１２０億円上回り、過去最大となる８兆４千５３０億円の予算を編成しております。

小平市におきましては、社会経済活動はコロナ禍以前に戻りつつあるものの、エネルギー・食料品等の価格高騰などの影響は続いており、市民生活や事業活動に対する継続した支援が求められております。また、市の財政状況といたしましては、歳入が伸びている一方で、それを上回る義務的経費の増加、公共施設やインフラの老朽化など、課題は山積みであり、今後、必要不可欠な歳出がますます増大することが見込まれております。

市の新たな将来人口推計では、人口のピークが令和７年から令和１２年へと後ろにずれることが見込まれるものの、長期的な人口減少の傾向はこれまでと変わらないものとなります。このような状況も踏まえ、引き続き、子ども・子育て施策の充実を図るとともに、厳しい財政状況や公共施設等の老朽化に対応するため、公共施設マネジメントに取り組みます。また、高齢者・障がい者への支援、再開発事業や都市計画道路事業、ゼロカーボンシティの実現など、ひとづくり、くらしづくり、まちづくりの各分野において、魅力あるまちの創造に向けて取り組んでまいります。

事業の実施に当たっては、その優先度を見極めつつ、国や東京都との連携、市民・事業者の皆様との協働の視点を重視して取り組んでまいります。

「市民とつくる８７の政策」につきましては、私の１期目の市長任期の最終年度として、従前から述べているとおり、「男女共同参画」、「防災・減災」、「ＩＣＴ の推進」の３本柱を中心と

して、実現を目指すとともに、これを託していただいた市民の皆様の意を汲んで、思いが形となるよう取り組んでまいります。

令和６年度の当初予算案でございますが、「つながり、共に創るまち こだいら」の実現に向けて、市を取り巻く社会環境、市民意識、市民ニーズ等に寄り添った施策・事業を実施できるよう、限られた財源を重点的かつ効率的に配分し、予算編成いたしました。

また、物価高騰への対応といたしましては、国や東京都との連携のもと取組を推進してまいります。物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業につきまして、令和５年度予算を一部繰り越すことにより、令和６年度に実施してまいります。

続きまして、小平市第四次長期総合計画の体系にそって、当初予算の主な取組につきましてご説明申し上げます。

はじめに「ひとづくり　人が育ち、学び、新たな価値を創造するまち」の分野でございます。

まず、子育て支援の積極的な推進としては、義務教育就学児医療費助成制度につきまして、令和６年１０月から、小学校４年生から中学校３年生までの所得制限を撤廃いたします。

保育園の整備といたしましては、公立保育園３園を私立保育園に移行するため、令和６年４月に、仲町保育園及び花小金井保育園の移行園を開設するほか、津田保育園につきましては、令和７年度の開設に向けて、園舎建築にかかる補助を行ってまいります。また、保育園、幼稚園等を利用していない未就園児を対象に、教育・保育施設で定期的な預かりを実施いたします。

学童クラブの整備としては、公設の学童クラブでは、令和７年度の開設に向けて花小金井小学童クラブ第三の新設工事を実施するほか、直営の鈴木小学童クラブで試行的に延長保育を実施いたします。民設民営の学童クラブでは、令和６年度に開設する１クラブに運営費を補助し、さらに令和７年度開設予定の２クラブに開設準備経費等の補助を行います。

また、子ども・若者計画の前倒しでの見直しにより、こども計画の策定に着手いたします。こどもの意見聴取に当たっては、こども基本法の理解促進を図るとともに、こどもの権利の普及に努めてまいります。

このほか、子育てコンシェルジュや虐待対策ワーカーを追加配置するとともに、多胎妊婦健康診査助成事業、バースデーサポート事業、産後ケア事業などを、拡充して実施してまいります。

小・中学校では、より安全で良好な教育環境の整備や、児童・生徒の増加等に対応するため、増築や大規模改造等の施設整備を行うとともに、学校体育館への冷暖房設備の設置を順次進めてまいります。

また、授業支援システムの試行導入により、ＧＩＧＡスクール構想を推進するほか、各学校に必要な人材の配置を拡充するなど、学校における働き方改革を推進してまいります。

特別支援教育の充実といたしましては、小平第四小学校に自閉症・情緒障がい特別支援学級を開設するとともに、通学バスを運行いたします。また、令和７年度からの開設に向けて、小平第二中学校において教室の改修工事等を行います。

このほか、小学校に通う児童の安全の確保のため、通学路の防犯カメラを増設いたします。また、学校における特別活動の一環として、市内小・中学校の代表者が集まる「児童会・生徒会サミット」を新たに実施するほか、中学校に在籍する不登校生徒一人ひとりに応じた支援のため、校内別室指導支援員の配置の拡充及び校内別室指導学級の設置により、不登校対策を充実してまいります。

学校給食につきましては、給食費改定に係る保護者負担の増加を抑制する激変緩和経過措置を講ずるとともに、第三子以降の無償化を年間を通して実施いたします。

健康づくりの分野では、引き続き健康施策プロジェクトとして、市民みずからが健康づくりを楽しんで継続できるよう、こだいら健康ポイント事業を中心に若い世代への周知・啓発の取組を推進いたします。また、がん治療に伴うアピアランスケア費用の助成を行うとともに、自殺対策の一環として、こころの状態を気軽にチェックできるメンタルヘルスチェックシステムを導入いたします。

スポーツの分野につきましては、東部公園のプール再整備、萩山公園のプール跡地活用の検討を進めてまいります。

文化・芸術の分野につきましては、平櫛田中彫刻美術館の記念館について、クラウドファンディングを活用して耐震補強・瓦屋根改修工事を実施するとともに、記念館の魅力を発信するイベントを開催いたします。国指定史跡鈴木遺跡の保存活用に向けた取組としては、保存管理等用地の予備設計のほか、整備基本計画の策定を進めてまいります。

このほか、東京都指定有形文化財の小川家文書、小平市指定有形文化財の當麻家文書及び新田開発に関する重要な史料について補修を行い、適切な保存に努めてまいります。

続きまして、「くらしづくり 多様性を認めあい、つながり、共生するまち」の分野でございます。

ＬＩＮＥを活用した女性相談について、年間を通して実施するほか、遠隔手話通訳サービスの導入や手話イベントを開催するなど、手話によるコミュニケーション支援の拡充と普及啓発に努めてまいります。また、障がい者の通所施設への送迎バスを増便するとともに、地域住民と障がいのある方で構成されたダンスグループによる自発的な取組に対する支援や、障がい者グループホームの増設などにより、障がい者の自立した地域生活と社会参加を推進いたします。

地域における支え合いと相談支援の推進として、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する重層的な支援体制の整備を推進するとともに、高齢者が地域で安心して暮らし続けられる環境の整備として、通信機能付きＬＥＤ電球を活用した高齢者の見守りや、高齢者の聞こえを支援し、認知症予防の一助とするための補聴器購入の助成などを行います。

また、高齢者の生活習慣病予防等の保健指導と、介護予防の一体的実施事業を、市内全圏域に拡大して実施するとともに、地域包括支援センターにおいて、認知症の方の状況に応じた支援を行う「チームオレンジ」を構築するための体制整備、若年性認知症に関する交流会の開催などを実施いたします。

安全・安心への備えといたしましては、東京都の新たな被害想定をもとに修正された東京都地域防災計画を踏まえ、小平市地域防災計画を修正するとともに、更新時期を迎えた被災者用備蓄品の入れ替えを進めてまいります。

続きまして、「まちづくり 自然と調和した、美しく快適で、魅力あるまち」の分野でございます。

まちの緑の保全と創出を図る取組として、鷹の台公園の整備では、公募設置管理制度の導入を行うほか、鎌倉公園の整備に向けた取組を着実に推進いたします。また、これらの公園を含む南西部地域の公園のほか、スポーツ施設やふれあい下水道館などの公共施設において、包括的な指定管理者制度の導入を進めてまいります。

用水路の整備では、本年度策定予定の用水路管理方針に基づき、大沼町一丁目地区の小川用水の緑道整備を行うとともに、市内の親水エリアなどに、用水路の歴史や特徴がわかる案内看板を設置いたします。

２０５０年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けては、省エネ・創エネ・蓄エネ機器等の設置費に対する助成件数を拡大するとともに、市役所本庁舎の空調設備で使用している都市ガスを、カーボンニュートラル都市ガスに切り替えるほか、花小金井小学校増築棟への太陽光発電設備の設置や、庁用車への電気自動車の導入を進めてまいります。

このほか、環境や資源循環の分野では、飼い主のいない猫の保護及び譲渡の活動に係る費用の補助や、ごみの分別アプリの外国語版の導入を行ってまいります。

市街地整備などの都市計画につきましては、まちの将来像とその実現までの道筋を示す、都市計画マスタープランの改定に着手いたします。

小川駅西口及び小平駅北口地区につきましては、駅前の利便性・安全性の向上や、にぎわいの創出など、将来的な人口減少時代の到来を見据え、まちの魅力の向上を図る取組として、再開発組合等に対する補助等により、支援を行ってまいります。

防災・減災のまちづくりといたしましては、木造住宅の耐震診断及び耐震改修の補助を拡大するほか、小平都市計画道路３・４・１９号線及び３・４・１０号線の整備、第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業などの推進、重要な社会インフラである公共下水道の地震対策や老朽化対策、雨水管渠整備を計画的に推進いたします。

さらに、安全で快適な道路・交通環境の確保に向けて、南西部地域においてデマンド型交通の実証実験運行を行うほか、小平駅南口有料自転車駐車場の更新や一橋学園駅周辺のタクシー乗り場の整備、小学校通学路の交通安全対策の充実などに取り組んでまいります。

産業振興・観光の分野につきましては、こだいら観光まちづくり協会が取り組むオープン・ガーデンのＰＲ動画の作成や花苗の購入を支援するほか、農業者が所有する宅地等の農地化、地域や環境に配慮した農業の基盤整備等の取組を支援し、農地の創出及び都市農地の保全を図ってまいります。

おわりに、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」の３つの基本目標を着実に推進するための「自治体経営方針」に関連して取り組む事業でございます。

将来的な人口減少や、公共施設の老朽化等の課題への対応として、引き続き公共施設マネジメントを推進し、公共施設の機能の再配置や複合化の各取組を計画的に推進いたします。中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館の複合化等、中央エリアの整備において、引き続き設計を

進めるとともに、小平第十一小学校・小平第十三小学校等複合施設の整備につきましても、それぞれ設計を開始いたします。また、小川駅西口新公共施設等につきましては、指定管理者の公募・選定を行ってまいります。

ＤＸの推進につきましては、国によるシステムの標準化に対応する取組を着実に推進するとともに、ＬＩＮＥを活用した各種サービスの拡大による行政手続のオンライン化、モバイルＷｉ－Ｆｉルーター等の公共施設への試行配備、生成ＡＩの活用などを行ってまいります。また、マイナンバーカードにつきましては、電子証明書更新者専用窓口を開設するほか、電話自動応答システムや申請書自動印字システムにより、更新手続きの円滑化を図ります。

また、職員のメンタルヘルス不調への対応として、職場における健康管理に関する専門的知見をもつ事業者による支援を導入するほか、ＤＸ推進に係る外部専門人材を登用するなど、専門人材を活用してまいります。

その他、令和６年度には地域コミュニティ担当や多文化共生担当、居住支援担当などを設置し、新たな課題への組織体制の強化にも取り組んでまいります。

以上、令和６年度当初予算に盛り込みました主な取組について、述べさせていただきました。

なお、小平市第四次長期総合計画の令和６年度主要事業としてお示しいたします８７項目のうち、４６項目に「市民とつくる８７の政策」に関連する内容が含まれております。